

正しい行いとは

おおい町立大飯中学校 二年 今井 翔斗

「正しい行い」とは何だろう。僕は、正しい行いは、当たり前前にできなければならぬものとして理解してきた。しかし、「正しい行いを何故するのか」ということをよく考えてみると、納得できる答えを持っていなかった。そんな僕が、二つの身近な経験から、改めて「正しい行い」について考えるきっかけを得た。

一つ目の経験。夏休み中の家族旅行でのことだった。僕たちは、満席の交通機関を利用していた。満席であったため、家族五人は三か所に分かれて座っていた。あと少しで目的地というところで、僕の弟が乗り物酔いにより、嘔吐してしまった。幸いにも、隣に母が座っていた。しかし、突然のことで対応が間に合わず、手で嘔吐物を受けるといふ事態になってしまった。その瞬間、弟の心配と同時に周囲への「迷惑」のことが僕の頭の中によぎった。「知らない人達ばかりの中で、かなりの迷惑になってしまう。怒り出す人がいたらどうしよう。」と、周囲の人たちの反応が気になった。

しかし、それは僕の心配を完全に打ち消すものだった。「大丈夫ですか？」

「何か必要なものありますか？」

周囲の人たちは、次々に温かい言葉をかけてくださった。中には、離れた席からビニール袋やウェットティッシュを持ってきてくださった方もいた。まるでわが子のように対応をしてくださるその光景を見て、僕は、感謝の気持ちとともにとても温かい気持ちになった。周囲の人たちからの助け、思いやりのおかげで、弟も無事に目的地に着くことができた。

それまで僕は、見知らぬ人を助けるということに対して腰が重く、正直、自分以外の誰かが助けられれば良いと思っているとところがあった。しかし、この経験を通して、困っている人がいる時は迷わず手助けをしようとして、強く思うようになった。

二つ目の経験。先日、何気なくユーチューブを見てみると、あるユーチューバーが迷惑行為をされて困っていると、ある動画が目にとまった。迷惑行為の内容を見てみると、見知らぬ大人がそのユーチューバーの自宅の前で勝手に動画を撮影し、インターホンを鳴らすというものだった。そのユーチューバーは、迷惑行為を行っている人に対して、

「私に好意や憧れを持ってくれていることは嬉しいと思う一方で、日常生活の時間を乱されて困っている。近所の方への迷惑にもなるため止めてほしい。」と、訴えていた。

僕は、この動画を見て、今までの自分の経験を振り返った。

「人が嫌がるようなことや、迷惑な行為をしてはいけない。家族であっても、相手が嫌だと感じることはしてはいけない。」

幼い頃から親に言われてきたことだ。そのため、このことは誰もが心がける最低限のマナーだと思い、日常的に気を付けてきた。しかし、この動画では、子どもより思慮深いはずの大人が身勝手な行動をし、たくさんの人に迷惑をかけている。その人にとっては有名人に会えるかもしれないという嬉しさや興奮があったのかもしれないけれども、された側にとってはプライバシーを無視した人権侵害だと感じた。

この動画を見てから、僕は、迷惑行為に関することを耳にすると、家族や友人と話題にするようにしている。誰かにとっての「迷惑」について考えることで、自分たちが気づける「迷惑」が増え、身勝手な行動が減らせると思うからだ。

僕たちは、誰しもが欲求をもっている。その欲求は叶うものもあれば、叶わないものもある。そのため、その感情を自分で調整していく力が必要になる。その力が身につけば、動画にあったような「迷惑行為」が世の中から減少し、人として正しい行いが浸透していくのではないかと、僕は考えている。

今回、「周りの人の温かい行動」と、「迷惑行為」に関する話題に触れたことから、自分の中の「正しい行動と何か」が見えてきた。いずれの経験からも、自分の感情だけで行動するのではなく、相手のことを考える想像力を働かせることが大切だと感じた。

自分だけが幸せであればそれでよいという考えは違う。僕たちは、一人で生きていくことはできない。人とのかわりの中で心地よく生きるにはどうしたらよいか。自分も含めた、周りの人すべてが笑顔になるような行動こそが、「正しい行い」をすることの意味なのではないだろうか。

何が「正しい行い」であるかの答えは、自分自身に置き換えて相手のことを考えることで、簡単に導き出されるのかもしれない。